

令和5年度 病害虫発生予察情報 注意報 第1号

令和5年5月11日
発表：福島県病害虫防除所

モモハモグリガの発生が早く、多発するおそれがあります！
防除適期に確実な防除を行い、密度低下を図ってください！

- 1 対象作物：モモ
- 2 病害虫：モモハモグリガ
- 3 対象地域：全域
- 4 発生量：多い

[予報の根拠]

昨年秋期のモモ新梢葉におけるモモハモグリガの発生ほ場割合は、平年より高い状況でした。本年のフェロモントラップによる本種の越冬成虫誘殺盛期は平年より早く、誘殺数はかなり多くなりました（図1）。

5月上旬の巡回調査において、モモ新梢葉における発生ほ場割合は、平年（5月下旬参考比較）に比べ非常に高く、一部のほ場では被害程度も高くなりました（図2）。なお、県北以外のモモほ場でも本種の被害葉が確認されています。

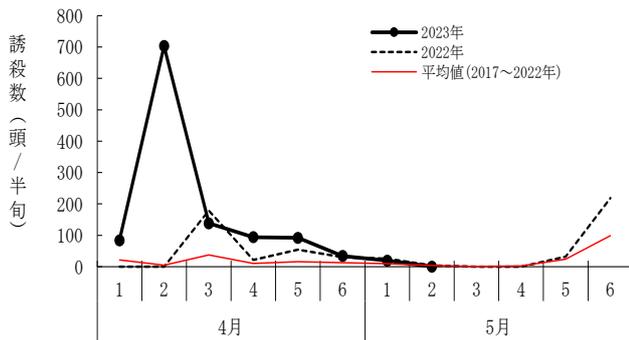


図1 フェロモントラップにおけるモモハモグリガの誘殺状況（農業総合センター果樹研究所）

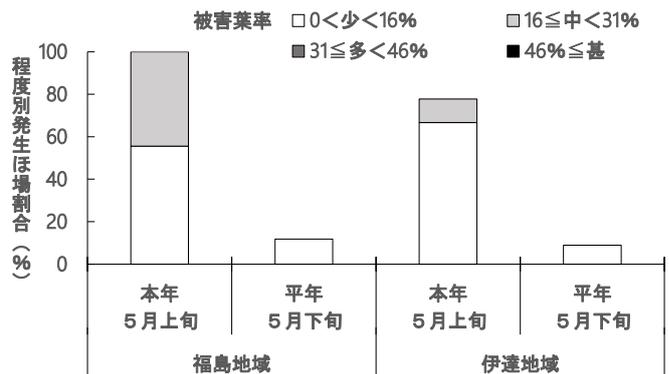


図2 モモ新梢葉におけるモモハモグリガの被害状況（県北地方、品種「あかつき」18ほ場）
注）5月上旬の調査は本年から実施。参考比較のため5月下旬の平年値を表示した。

[防除対策]

- 1 複合交信かく乱剤が未設置のほ場では、直ちに設置を行ってください（表2）。
- 2 本種第2世代幼虫の平年の防除適期は6月10日頃ですが、本年は3～4月の高温によりモモの生育は約2週間早まっており、本種の発生も早まっています（写真1、2）。
天候予報（令和5年5月4日付け仙台管区气象台発表）によると気温は高い見込みで、農業総合センター果樹研究所における第1世代成虫の誘殺盛期は、5月5半旬頃と予測され、**第2世代幼虫の防除適期は5月6半旬頃と推定**されています（表1）。
- 3 本種に対して効果の高い薬剤は、アセタミプリド水溶剤（商品名：モスピラン顆粒水溶剤）及びスピネトラム水和剤（商品名：ディアナWDG）です（令和4年度参考となる成果<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566396.pdf>）。使用基準を遵守して適切に使用してください（表2）。

葉当たり3頭以上の寄生を受ける（写真3）と落葉が始まるとされているので、確実な防除により密度低下を図ることが重要です。

表1 モモハモグリガ防除適期の推定（令和5年5月9日現在）

	今後の気温予測		
	2℃高い	平年並	2℃低い
第1世代成虫誘殺盛期	5月24日	5月27日	6月1日
第2世代幼虫防除適期	5月30日	6月2日	6月8日

注) 越冬成虫誘殺盛期（4月7日）を起算日として、三角法（坂神、是永（1981））により有効積算温度を推定（農業総合センター果樹研究所による演算）。

表2 モモハモグリガ防除薬剤の農薬使用基準

薬剤名	有効成分	RACコード	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数
コンフューザーMM	ホフルア トトリルア ピーチフルア ピリマルア	—	<u>120本/10a</u>	ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する。	成虫発生初期～終期	—
ディアナWDG	スピネラム	5	<u>5,000倍</u>	散布	収穫前日まで	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリト	4A	<u>4,000倍</u>	散布	収穫前日まで	3回以内

注) 登録内容は令和5年5月1日現在。希釈倍数・使用量の下線は試験研究成果に基づき、効果的な使用方法を示すものである。



写真1 モモハモグリガの被害葉
（撮影：令和5年5月2日）



写真2 モモハモグリガ成虫



写真3 複数の寄生を受けたモモ葉
（写真2、3提供：農業総合センター果樹研究所）

●情報内容への質問は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727